

2011年 新潟大学歯学部同窓会首都圏セミナー

日時：平成23年8月28日（日）13：00～15：00

会場：キャンパス・イノベーションセンター東京 509AB

JR山手線 田町駅下車徒歩1分（芝浦口の下りエスカレーターを降りて20メートル先）

参加費：3,000円

「口腔内カメラの拡大映像を見ながら行う歯科診療システム」

藤江デンタルクリニック 藤江英宏（23期生）



治療部位を拡大して見ながら治療するという事は技術の進歩を追い求める医療において自然な流れだと思います。根管治療にマイクロスコープを使うのも同じ発想だと思います。今回、紹介させていただく口腔内カメラの治療方法も、この流れに沿った方法で、医科においては内視鏡治療としてすでに確立されています。

口腔内カメラはある工夫をすると比較的簡単に治療に使えるようになります。筆者は9年前にその方法を考案し、それ以来口腔内カメラの動画映像を見ながら日常診療をしています。診療システムの概要を説明すると、歯科医師は左手には口腔内カメラを持って口腔内の治療部位を撮影します。その動画映像をモニターで見ながら右手で診療をします。モニターの映像は数倍～20倍の拡大映像です。治療を受けている患者は上を向いていますが、そこに鏡が設置してあり、その鏡にモニターが映るため治療中、患者はいつでも歯科医師が見ている映像をリアルタイムで見ることが可能です。



今回のセミナーでは歯科のいろいろな分野の治療ビデオをお見せします。また、デモンストレーションを行い、実際の診療をセミナー会場で再現してお見せします。

口腔内カメラを用いた診療の主な特徴を挙げると以下のようになります。

- 1 術者の診療姿勢は口の中を覗きこまないため、自然体でその結果疲れにくい。
- 2 大きく拡大されて見えるので診断能力、治療技術が向上する。
- 3 応用範囲がきわめて広く、ほとんどすべての歯科治療分野で活用できる。
- 4 患者もリアルタイムに映像を見られるのでインフォームドコンセントに最適。
- 5 治療内容をビデオで一部始終、記録できる。

口腔内カメラが有効な主な治療分野

- 1 口腔内診査：初期カリエス、二次カリエス、補綴物の適合状態、歯周病の診査、歯垢・歯石の付着状態などを肉眼よりも正確に診査・診断でき、同時に患者にも見せて説明できる。
- 2 スケーリング：拡大して見ながら行うことで、歯肉を傷つけず、治療中の歯肉からの出血が少なくなる。歯石の取り残しも減少する。
- 3 保存修復：ミニマム・インターベンションの考え方に沿った治療ができる。どこまでカリエスを除去するか、拡大して見ることで診断がより正確になる。
- 4 歯内療法：拡大して見るため根管口を見つけやすい。肉眼で見つからない歯の亀裂も発見できる。根管内の状態もかなり良く見えるため正確な治療ができる。

今回紹介する内容は「肉眼で見る治療からモニターで拡大して見る治療へ」という歯科医療の形を変える革新的な内容です。より良い診療を目指している先生方には是非、ご覧いただきたくご案内いたします。

尚、以下のホームページからセミナーの内容の一部をご覧になることができます。

http://www14.ocn.ne.jp/~fujihide/index_frame.htm

講師略歴

平成5年3月	新潟大学歯学部卒業
平成13年1月	横浜市に開業
平成14年5月	口腔内カメラの映像で治療する方法を開発
平成19年5月	上記の治療法に関する特許取得
平成20年8月	日本歯科人間工学会で発表
平成22年10月	日本歯科保存学会で発表

★本セミナーの事前登録は行いません。参加費は当日御願いたします。